



## 2025 年を迎える前に

副校長 家本 咲子

12月になりました。2024年のゴールも目の前です。時が経つのは本当に早くて、この時期になると、1年の間に自分自身胸を張ってこれは頑張った、と言えることはあるのだろうか、と焦燥感に駆られます。そして、来年こそは、何かを頑張ろうと密かに決意するのも毎年のこと。少しでもすがすがしい気持ちで2025年を迎えるために、12月は2024年をしっかりと振り返る時間にしたいと思っています。

さて、2学期はさまざまな行事が行われ、その度に子供たちはいろんなことに挑戦しました。特に、学習発表会の成功に向けての子供たちの挑戦には、それぞれのドラマがありました。台詞を大きな声で言うことができずに何度も繰り返して練習したり、難しいリズムに乗れず個人練習に励んだり、みんなと息を合わせ、心を通わせて一つの作品を仕上げることの難しさを痛感した日々だったと思います。同時に、達成した時の大きな喜びを感じた経験となりました。先日ある研修の中で、講師の先生に「子供たちは良くなろうとしている」という言葉をいただきました。まさに「子供たちは良くなろうとした」1か月。この言葉が強く私の心に響き続けた1か月でした。

たくさんの方に挑戦してきた子供たちですが、その心は「良くなりたい」「できるようになりたい」「うまくなりたい」で溢れていることを私たちは忘れてはいけません。子供たちが「良くなろうとしている」時に、大人としてどんなサポートができるのか。今、どんなサポートができているのか。12月はこのことをしっかりと振り返る1か月にしようと思っています。私が教員になってから常に心がけているサポートは、「最後まで話を聴くこと」です。子供たちが聴いてほしいことを、途中で口を挟まずに、「最後まで聴ききること」です。子供たちはいつも「話を聞いてもらいたい」「自分を見てほしい」と強く願っています。子供たちは話しているうちに、自分自身の中で整理でき、自分が何をすれば抱えている問題を解決できるか見つけられるようになります。「聴くが効く」です。聴くことがいかに効果があるか、ということは子供たちのその後の行動から分かります。聴いてくれる大人がそばにいるという安心感は子供たちに自信をもたらします。自信をもてた子供たちは、前向きな気持ちになり確実に良くなっていきます。12月は、「聴くこと」をより意識していきたいと思っています。みなさんもぜひ、「良くなろうとしている」子供たちのサポート、自分にできることを考えてみませんか。

12月は、子供たちもこれまでの自分を振り返る時間、そして自分自身の行動をどう変えていくか考える時間をもってほしいと思います。そうすることで、まもなく始まる2025年をすがすがしい気持ちで迎えられるはずです。保護者の皆様、地域の皆様にたくさんの励ましをいただき、無事に2学期が終わろうとしています。感謝申し上げます。残りの日々も子供たちが笑顔で過ごせるようご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

## 【生活指導部より】

## 12月の目標

生活	人に親切にしよう
保健	かぜを予防しよう
給食	時間を守って食べよう

## 12月の「人格の完成をめざして」

## 「親切」

- ・友だちがこまっていたら、声をかけたり話を聞いたりしましょう。
- ・一日に一回、家族や地域の人など、だれかに親切にしましょう。
- ・友だちや先生の役にたつことを探し、行動してみましょう。